

関東ふれあいの道を歩く(茨城)④焼き物とお稲荷さんへのみち

2021年7月2日 池内淑皓

2021年3月23日(火)晴れ、コロナウイルスで自粛要請が出ているが、健康づくりのためこっそり出かけた。主として今までは、栃木県と茨城県県境の八溝山地の山間部を主として歩いて来たが、今回からしばらく関東ふれあいの道は、平野部に降りて笠間市内を歩くようになる。ここには日本三観音の一つ「笠間稲荷」がある、楽しみだ。



関東ふれあいの道「④焼き物とお稲荷さんへのみち」案内図 (首都圏自然歩道連絡協議会)



関東ふれあいの道(茨城)④焼き物とお稲荷さんへのみち概念図



今日の鉄道最寄り下車駅は、水戸線笠間駅。天気も上々



今日のスタート地点は石寺集落であるが、笠間からのバス路線は廃止となり、公共交通機関はなく、タクシー利用となる。バス停もバス待合所もなく、関東ふれあいの道案内板があるだけ。



石寺の交差点から 飯田川に沿って山間の狭い石田集落の間を西に向かって歩く



この集落に国指定重要文化財があるのは驚きだ



「弥勒堂」鎌倉時代の宝治二年(1247)笠間城主藤原時朝により、鎌倉時代作と云う弥勒仏立像を安置した。毎年4月8日に見ることが出来ると言う、今は鉄筋コンクリート造りのお堂に厳重保管されている



木製に変わって、アルミ板の案内図は分かり易い



昔は笠間から徳蔵を経由して塩子までバスがあったと云う。これもご時世だね



森が切れると畑が広がり、道祖神も地神塔も昔のままにある



高野、寺崎の集落を抜けると、笠間稲荷は目の前だ



笠間稲荷の門前に近づいて来た、大きな常夜灯が稲荷への入口になる



門前の町は昼下がりではあるが、閑散としている



「大鳥居」1990年に建てられたが、2010年の地震で倒れ、2016年に再建された



仲見世を通り抜けて、参拝してこよう



「笠間稲荷」日本三大稲荷の一つ。創建は白雉2年(651)本殿は文久元年(1861)の完工で外陣、内陣からなる複合社殿。歴代の笠間藩主が崇敬してきた。万延元年(1860)城主による棟上げ祈禱が行われ、大工棟梁は真壁郡大曾根村の柴山と笠間高橋町海老沢太郎兵衛、彫刻師は弥勒寺音八とある。音八は宮中賢所の菊の紋章を彫っており、上州や武州で多くの作品を残した名工である。湘南ふじさわオーキング協会の副会長弥勒寺裕さんは、音八と血の繋がる縁者である。



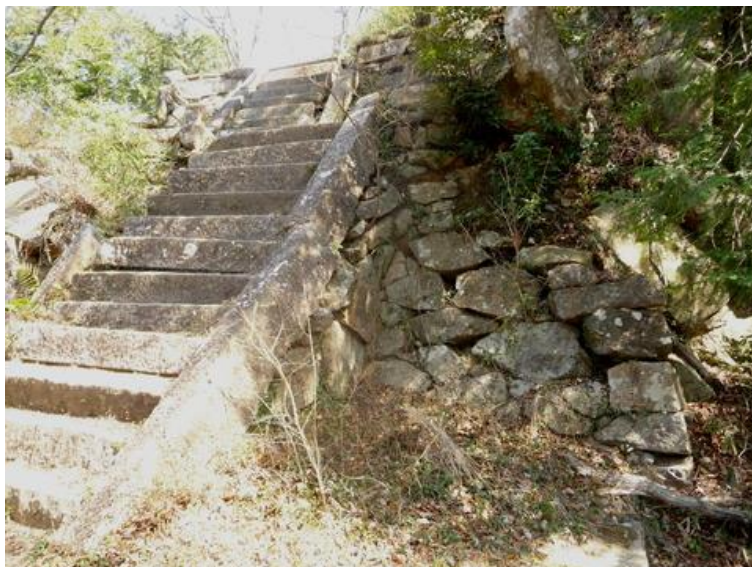
稲荷前にあるコース図に従って、笠間城址を訪ねてみよう。笠間城は佐白山(182m)の頂上にある中世の山城



山麓に忠臣蔵で有名な、浅野家家老「大石邸跡」がある 大石内蔵助の曾祖父良勝、良欽が住んでいた屋敷跡が残されている。浅野家は天和8年(1622)笠間5万3千国の城主であったが、正保2年(1645)播州赤穂に国替えとなっている



笠間城は鎌倉時代、この地域の徳蔵寺と正福寺の僧兵達による反乱を鎮圧するために、下野国宇都宮の笠間時朝が佐白山に砦を築いたのが笠間城の起こりとなっている。



天正 18 年豊臣秀吉の小田原征伐で宇都宮本家に攻められて滅亡した。慶長 5 年(1600) 関ヶ原合戦の後松井、小笠原、戸田、永井が入った後浅野氏が治めた。



「天守台跡」(関東大震災で崩壊した)

のち井上、本庄と入り牧野氏が 8 代続いて明治となった。二重の天守が建てられ本丸、大手門、横堀等多くの曲輪が存在している。関東の城郭としては珍しく石垣が多用されているのが特徴。



佐白山から笠間駅への帰路は、笠間焼のタイルを踏みながら一時間程で着く



笠間駅ゴール 14:30。

今日は笠間稲荷門前の旅館に宿泊する、疲れたから路線バスで稲荷門前まで戻る事にしよう

[参考タイム] 笠間駅(9:09)→タクシー→石寺(9:30-9:35)→弥勒堂(10:00-10:05)→笠間稲荷(12:20 途中昼食)→笠間城址(13:05-13:30)→JR 笠間駅ゴール(14:30)

この項完

「関東ふれあいの道を歩く(茨城)⑤自然林を歩くみち」に続く